

## 平成29年度第3回地方独立行政法人京都市立病院機構理事会 議事録（要旨）

- 日 時： 平成29年6月27日（火） 午前10時30分から12時10分まで
- 場 所： 京都市立病院 本館5階会議室
- 出席者： 理事長 森本 泰介  
理 事 森 一樹, 黒田 啓史, 桑原 安江, 大森 憲, 位高 光司, 山本 壯太,  
木村 晴恵  
監 事 長谷川 佐喜男, 中島 俊則  
事務局 阿部経営企画局次長, 長谷川担当部長, 榎木担当副部長, 高橋経営企画課長,  
石田総務担当課長, 澤井管理PFI担当課長, 北川京北病院事務長

### 1 開会

### 2 報告等

#### (1) 平成28年度京都市立病院機構決算及び財務諸表等（案）について

資料1に基づき阿部経営企画局次長から説明

- キャッシュフロー活動は27年度と比較してどうだったか。また、借入金返済にかかる金利は。
  - 主に設備投資等が減少し、それに伴い起債がなくなった影響で、京都市からの長期借入による収入も大きく減少したことにより、キャッシュフローは減少している。  
借入金については、京都市の起債に基づく金利設定であるが、低く抑えられている。
- 万が一キャッシュが底をつく場合の対応は考えているか。
  - 年度内に返済できる場合は、一時的に市中銀行から借り入れることで対応する。年度をまたぐ場合は、地方独立行政法人法上、京都市の認可や評価委員会の手続き、議会報告が必要になると思うが、適切に対応してまいりたい。
- 28年度の黒字化の主な要因の一つに、退職給付引当金の減少があると思うが、これは何故減少したのか。
  - 27年度決算において、ゼロ金利政策の影響で退職給付引当金が不足となり、積み増して計上したが、今年度は積み増し計上がなくなったものである。金利に大幅な変動がなければ、27年度のように巨額の引当てを行うことはない。
- 行政サービスコスト計算書を作成する意図はどのようなものか。
  - 納税者である市民に対する説明責任を確保する観点から、法人の損益計算書では反映されない実質的な負担コストを開示するため、運営費負担金等を控除して表示されるもので、地方独立行政法人会計基準に示されている。法人単独での経営力を見る指標ともいえるが、当法人は良い方向に推移していると言える。

#### (2) 平成28年度実績報告書（案）について

資料2に基づき阿部経営企画局次長から説明

- 職員満足度調査はいつから取り組んでいるか。良い病院は職員満足度も高い。ここがB評価のままなのは、アンケート結果が生かされていないからではないか。
  - 平成22年から全職員を対象におおむね年1回行っているものである。徐々に改善されてきてはいるが、一般事業主行動計画に掲げる目標が未達成である点などを踏まえて、B評価

としている。職員がモチベーション高く業務に取り組めるよう、委員会等でも重点目標を定めてやっていきたい。

- PFI に関する評価が 26 年度に A をつけて以降、B 評価が続いているが、A 評価の基準は。
  - 26 年度は新棟整備が完了したころ、またそのコストを抑えることができたことを評価して A 評価としたが、運営面ではまだ満足する基準に達していない。
- コンプライアンスの確保や個人情報の保護を B 評価としている理由は。
  - 特に重要視している項目で、委託業者を含む病院関係者のコンプライアンスや個人情報に対する意識について、目標を高く掲げており、敢えて厳しく B 評価をつけている。
- 広報関係は、ずいぶん取り組まれている気がするが、入院患者さんや退院患者さんたちと医師・看護師等が共通の掲示板のグループを作り、ロコミ力をあげている病院もあり、参考にしていきたい。
  - また、京北病院は、市立病院への患者送迎サービスを行うなど、他の地方都市でできていない先進的な取組ができています。市立病院との緊密な連携を今後も続けていただきたい。

### (3) 監査報告書について

資料 3 に基づき長谷川監事から 28 年度事業及び会計について適切に行われたことを報告。

### (4) 損害賠償額の決定について

資料 4 に基づき、長谷川管理担当部長から説明。

### (5) 経営状況月次（6 月分）報告

資料 5 に基づき、阿部経営企画局次長から説明

## 3 閉会